

## 幕末明治の写真師列伝 第四十八回 内田九一 その十三

慶応3年(1867)2月頃に、松本良順が大阪より江戸の自宅に帰宅すると内田九一と再会する。そしてこの頃の内田九一は、松本良順が江戸に戻った後もしばらく松本の屋敷の近くにて来訪する「大小諸藩幕下の士」を客として写真撮影をしていたと思われる。

慶応4年(1868)1月、鳥羽伏見の戦いが起こり、そのことを江戸の自宅で聞いた松本良順は同年閏4月に、奥羽列藩同盟に医者として参加するために江戸を出て会津に向かう。ちなみにこの慶応4年(1868)3月に松本良順は神田和泉橋通医学所から今戸に居を移しているから、この慶応4年(1868)3月の時点で、内田九一は松本良順宅を出て、それまでに写真撮影で稼いだ資金を元手に、外国人客も多く見込まれる横浜の馬車道(住吉町4丁目)に移転して、そこで開業したのではないかと思われる。これは、幕末期の江戸の騒乱を避けるため、横浜にいた松本良順の父・佐藤泰然を頼ったとも考えられる。

「本邦寫眞家列傳(承前)・故清水東谷氏」(原田栗園『写真新報』第150号 明治44年3月)には、以下のように記述されている。「(前略) 当時下岡蓮杖氏横浜に写真業を営めるを見、東谷氏亦旧弁天通り二丁目に写真館を開く、明治元年秋内田九一氏長崎より来り、馬車道に写真場を建設するを聞き、東谷氏亦同じく馬車道(今の住吉町四丁目)に写真場を新築す、(後略)」

「写真台紙考」(原田栗園『写真新報』第155号 明治44年8月)には、以下のように記述されている。「(前略) 内田九一氏が横浜に開業したことは明治元年秋であるが、東京浅草瓦町に支店を設けたことは翌二年である。」

『写真新報』では、「内田九一氏が横浜に開業したことは明治元年秋である」としているが、これは慶応4年が9月8日に明治元年に改元されたためであろう。

「本邦寫眞家列傳(其十四)・故内田九一」(原田栗園『写真新報』第162号 明治45年3月)によれば、「内田氏即ち去て横浜に赴く、時に石川某なる者あり、氏の妙技に感じて資を投じ、寫眞館を設けて其技を振はしむ、下岡蓮杖氏既に本町通に在りて業を営む、今又内田氏の業を開くあり、両々相對峙して業務日に月に盛んなり、超て明治二年に至り、東京浅草瓦町に地を相して支店を設け、横浜本店と相呼応して益々繁盛に向ふ」とあることから、この慶応4年/明治元年に、石川某なる人物(『故内田九一短歴』の記述では石川新助)が内田九一を支援して、内田九一は横浜馬車道の写真館を開業していることがわかる。ここに出てくる「石川某なる者」とは、石川新助という人で、この人については詳細は不明ではあるが、「林薫の石川新助宛書翰」という林薫(当時15歳)が、慶応2年に英国留学生として行った際に、横浜よりロンドンまでの旅行について報じた書翰があ

ることから、林薫の父、佐藤泰然の友人であることが判っている。

このことから考えるとやはり内田九一は横浜で松本良順の実父・佐藤泰然を頼った可能性が高いと思われるのである。おそらくそこで佐藤泰然から友人の石川新助を紹介されて、佐藤泰然の後ろ盾もあって石川新助から援助を受けたのではないだろうか。

明治初期の横浜では競合業者である下岡蓮杖もすでに文久2年から写真館を開業、後に横浜本町に移転して営業しており、またその他の同業者も、清水東谷が同じ馬車道に、臼井秀三郎が太田町で写真館を開業しており繁盛していた。また横浜に在住していた外国人写真家も居た。これは写真材料の良質なものを、主に鶏卵紙が横浜で輸入されていたせいでもある。下岡蓮杖はさらに横浜太田町馬車道5丁目77に写真館「相影楼」「全楽堂」を開業、清水東谷は横浜弁天通り2丁目(今の住吉町4丁目)に写真館を開業していたことがわかっている。

「本邦寫眞家列傳(承前)・故清水東谷氏」(原田栗園『写真新報』第150号 明治44年3月)によれば、「東谷氏亦旧弁天通り二丁目に寫眞館を開く、明治元年秋内田九一氏長崎より来り、馬車道に寫眞場を建設するを聞き、東谷氏亦同じく馬車道(今の住吉町四丁目)に寫眞場を新築す、前きに下岡蓮杖氏あり、次に清水東谷氏あり、尋で内田九一氏あり、横浜の寫眞界並に及んで大に活気を添ふ。」とあることから、明治元年秋に内田九一は清水東谷と同じ横浜弁天通り4丁目(今の住吉町4丁目)に写真館を開業していたようである。

当時の横浜本町壹丁目(道幅拾間)、吉田橋関門近くともいうが、この本町壹丁目(道幅拾間)が後の馬車道通であるから、この馬車道通に内田九一の写真館はあったと思われる。このことを補足するものとしては、明治7年10月13日~20日の『横浜毎日新聞』の広告に以下のものがあることから判る。

「○廣告 本港馬車道通 写真師 内田九一 拙業諸君子の愛顧に憑り日昌月盛に相運び感佩不過之因て猶又該所於て来る十五日より開業候間四方諸君子依舊御枉躑の程冀望候なり。 戌十月」

また、明治8年8月24日~9月3日の『横浜毎日新聞』の広告に以下のものがある。

「今般開業仕候内田九一製造寫眞圖ノ儀者日本國中名所風景并高名人物藝妓役者其外數多新繪澤山ニ御座候間御遊覽ノ上御用 仰付被下候様偏ニ奉願上候 寫眞圖賣捌所 横濱馬車道常盤町 七十四番地 内田」

内田九一は明治8年2月17日の暁きに病死したが、その後は二代目・内田九一が継いでいたことから、この広告にある「横濱馬車道常盤町七十四番地」に写真館があったと考えてよいだろう。

(森重和雄)